

(技術士事務所 稲葉 IT ガバナンス研究所 脱炭素 DX モニタリング)

第10号：2025年6月2日（月）～ 2025年6月8日（日）報道分

週刊 脱炭素 DX ニュースウォッチ 2025（日経 XTech 編）の第 10 号を配信いたします。

<目次>

- ☐ 6/2 (月)
- ☐ 6/3 (火)
- ☐ 6/4 (水)
- ☐ 6/5 (木)
- ☐ 6/6 (金)
- ☐ 6/7 (土)
- ☐ 6/8 (日)

矢野経済研究所は、国内のバイオプラスチック市場が脱・海外依存を進め、2030年には販売量が8万1015トンに達すると予測しました。背景には、SAF（持続可能な航空燃料）製造に伴うバイオマスナフサの国内生産があり、これを

原料とするバイオプラの供給拡大が期待されています。さらに、CO₂を原料とする新技術にも注目が集まり、日本市場では生分解性プラに加え、リサイクル可能なバイオプラの導入が鍵になるとしています。

【6/2・日経 XT】 記者の眼 ラピダスは光電融合の担い手になれるか、日本の課題は量産メーカーの空白 久保田 龍之介 日経クロステック

<https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/column/18/00138/052901771/>

記事は、生成 AI の電力消費を大幅に削減する技術「光電融合」が注目される中、日本企業ラピダスがこの分野の担い手になれるかを論じています。光電融合は高速・低消費電力の通信を可能にしますが、現在は TSMC など海外勢が量産をリードしており、日本には量産メーカーの空白があります。ラピダスは先端半導体や 3 次元実装技術の開発を進め、将来的な製造担い手として期待されていますが、量産や顧客獲得など課題も多く、今後の動向が注目されます。

【6/2・日経 XT】 AI エージェント元年、本命は「マルチ」 第 4 回 課題も多いマルチ AI エージェント、実用化に向けて精度・ガバナンス・コストの壁 太田 萌枝 日経クロステック／日経コンピュータ

<https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/column/18/03206/052200005/>

マルチ AI エージェントの実用化に向けては、精度の低下、データやセキュリティのガバナンス、API コストといった課題が立ちはだかります。処理の受け渡しで精度が落ちるリスクがあり、セキュリティ確保には共通プロトコルと安全な関係基盤の整備が必要です。また、API 呼び出しの増加によるコスト高も懸念されます。これらの課題を乗り越えるには、人間の関与を取り入れた業務設計や、運用・法令対応の体制づくりが欠かせません。

【6/2・日経 XT】 歴史が証明「開発マネジメントがうまい会社は業績が良い」 第 3 回 業績が上昇傾向にある企業は研究開発投資と改革に前向き 渡辺 智宏 PwC コンサルティング 土本 淳二 PwC コンサルティング 深澤 勉 PwC コンサルティング 清水 大介 PwC コンサルティング

<https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/column/18/03205/052200003/>

PwC コンサルティングの調査によると、業績が上昇傾向にある企業は研究開発投資を積極的に行い、業務改革にも前向きであることが明らかになりました。これらの企業は開発マネジメントの水準が高く、品質・コスト・納期に関する課題が少ない傾向にあります。特定の項目に注力するよりも、開発全体を俯瞰し、自社の課題を的確に把握して改革に取り組む姿勢が重要とされています。改革のスピードが求められる中でも、テーマ選定には慎重さが求められます。

【6/2・日経 XT】 ニュース解説：土木 国土交通省、直轄工事に電動建機や次世代燃料 脱炭素のモデル工事開始 星野 拓美 日経クロステック／日経コンストラクション

<https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/column/18/00142/02261/>

国土交通省は、2025 年度から直轄土木工事の脱炭素化を進めるため、「GX 建設機械活用推進工事」と「ゼロエミッション促進モデル工事」を開始します。前者は認定された電動建機の使用を義務付け、後者は軽油をバイオ燃料などの次世代燃料に代替する方針です。これらのモデル工事では、割高となる費用を予定価格に反映し、導入促進を図ります。スウェーデンの再開発事業を参考に、CO₂排出削減の先行事例を構築し、全国への展開を目指します。

【6/2・日経 XT】 ニュース 石炭ボイラーの CN 燃料移行を支援し CO₂ 抑制、出光と NRI 松田 千穂 ライター

<https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/news/24/02551/>

出光興産と野村総合研究所は、石炭ボイラーのカーボンニュートラル燃料への移行を支援するソリューション「idemitsu-R40」を開始しました。燃料混焼比率の最適化や運転監視、データ共有機能を備え、既存設備を大規模改修せずに

CN 燃料比率を段階的に高めることが可能です。安定運用を支援することで、石炭ボイラーの CO₂排出削減を促進し、2050 年のカーボンニュートラル実現に貢献する取り組みです。

【6/2・日経 XT】 どこにある、日本の「本当に大きい」データセンター 第 1 回 日本最大のデータセンターは「印西の AWS」か、環境省のデータから分析 杉山 千織 日経クロステック 中田 敦 AI・データラボ

<https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/column/18/03217/052600001/>

日本の「本当に大きい」データセンターを明らかにするため、日経クロステック編集部は環境省の公表するエネルギー起源 CO₂ 排出量に着目し、電力消費から規模を推定しました。分析の結果、排出量が最も多かったのは千葉県印西市のアマゾンデータサービスジャパンが運用する「MFIP 印西」と「MFIP 印西 II」で、合計約 18 万トンに達しました。これは成田空港に匹敵する排出量であり、日本最大級のデータセンターと見なされます。

【6/2・日経 XT】 ニュース 日本製鉄が電炉転換へ 8700 億円を投資、年産 290 万トン計画 松田 千穂 ライター <https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/news/24/02560/>

日本製鉄は、CO₂排出削減を目的に高炉から電炉への転換に約 8700 億円を投資し、電炉 3 基で年産約 290 万トンの体制を 2029 年度下期までに整備します。政府支援を受けつつ、山口・兵庫・福岡の製鉄所で順次整備を進めます。設備投資やコスト増に対応するため、「GX スチール市場」の形成にも注力し、グリーンスチールの普及と国際標準化に向けた取り組みを強化しています。

[目次へ](#)

□ 6/3 (火)

【6/3・日経 XT】 ニュース解説 IHI が小型モジュール炉の部材を公開 米企業向け、海外建設に活路 斉藤 壮司 日経クロステック／日経エレクトロニクス

<https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/column/18/00001/10705/>

IHI は 2025 年 5 月、小型モジュール炉（SMR）向けの鋼製モジュール試作品を公開しました。これは米 NuScale Power がルーマニアで計画中の SMR 建設を見据えたもので、IHI は本格受注や原子炉格納容器の提供も目指します。試作品製作で得た知見を活かし、サプライチェーンの整備や溶接技術の高度化を進めています。海外での建設参画により技術を維持・強化し、将来の国内展開を視野に入れています。SMR は小型で安全性が高く、脱炭素化の有力手段として注目されています。

【6/3・日経 XT】 どこにある、日本の「本当に大きい」データセンター 第 2 回 アット東京のデータセンターも日本最大級、東京都の公開データで分かる詳細 杉山 千織 日経クロステック 中田 敦 AI・データラボ

<https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/column/18/03217/053000002/>

本記事では、環境省の CO₂ 排出量データや東京都の「地球温暖化対策計画書」を基に、日本国内の「本当に大きい」データセンターを探っています。特に、KDDI やアット東京などの施設が高排出量を示し注目されましたが、通信ビルと併用される施設やテナント契約形態によって排出量の計上方法が異なるため、単純比較は困難です。東京都内の施設では、地球温暖化対策計画書によって全体の排出量が明らかとなり、アット東京の東京中央センターなどは非常に大規模であることが分かります。

[目次へ](#)

□ 6/4 (水)

【6/4・日経 XT】 ニュース解説 ホンダ初、量産車で高速ハズオフ E2E に橋渡し 横山 皓大 AI・データラボ／日経クロステック 本多 倖基 日経クロステック／日経 Automotive

<https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/column/18/00001/10718/>

ホンダは2025年5月、上級セダン「アコード」の日本仕様に、高速道路でのハンズオフ運転が可能な先進運転支援システム「Honda SENSING 360+」を初めて搭載しました。この新ADASは従来の「360」に加え、車内カメラや高精度地図を導入し、5つの高度機能を実現しています。中国市場での先行展開を経て、日本での導入により世界展開を加速し、将来のE2E型自動運転「NOA」実用化に向けた橋渡しの役割を果たします。

【6/4・日経 XT】自動車グローバルウォッチ 現代自動車グループ、3回目のスタートアップ向けファンドを開始 櫛谷 さえ子 日経 Automotive 専属ライター

<https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/column/18/03214/053000003/>

現代自動車グループは、初期段階のスタートアップ企業向けファンド「ZER01NE」の第3弾となる「Fund III」を開始しました。出資規模は過去最大の1250億ウォンで、AI、ロボット、水素エネルギー、再生可能エネルギー、リサイクル技術など、脱炭素や環境技術分野の有望スタートアップが投資対象です。過去のFund IとIIでは計105社以上に出資し、協業実績も200件を超えています。Fund IIIは、グリーン分野での技術革新を促進する取り組みとして注目されます。

【6/4・日経 XT】深掘り先進事例 商船三井が船員の配乗計画をAIで、作業工数を7割減 ワークライフバランス向上も 商船三井 玄 忠雄 日経クロステック／日経コンピュータ

<https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/column/18/00678/052200156/>

商船三井は、船員の配乗計画をAIで自動作成する「最適化 AI 配乗計画システム」を富士通と共同開発し、2025年5月から貨物船で本格運用を開始しました。従来は人手で行っていた業務の工数を約7割削減し、休暇希望や資格要件を反映した柔軟な計画変更も容易になりました。これにより、配乗業務の効率化だけでなく、休暇の平準化やワークライフバランスの向上も図れます。今後は他の船舶運航への展開も視野に入れています。

[目次へ](#)

□ 6/5 (木)

【6/5・日経 XT】日経クロステック NEXT 関西 2025 AI 時代を支える省電力の次世代半導体技術、専門記者が解説 日経クロステック

<https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/column/18/03184/060500028/>

生成 AI 時代に求められる省電力・高速処理を実現する次世代半導体技術の最新動向が、「日経クロステック NEXT 関西 2025」で解説されました。講演では2nm以降の先端半導体開発や、GAA トランジスタや2D 半導体などの革新技术、さらに Beyond CMOS や非ノイマン型アーキテクチャーの可能性が紹介され、省電力かつ高性能な半導体の未来像が示されました。

【6/5・日経 XT】どこにある、日本の「本当に大きい」データセンター 第3回 温暖化ガス排出量1万トン超データセンターは日本に75カ所、8割が首都圏に集中 杉山 千織 日経クロステック 中田 敦 AI・データラボ

<https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/column/18/03217/060300003/>

2022年度時点で、温室効果ガス排出量が年1万トンを超える大型データセンターは日本に75カ所存在し、その約8割が首都圏に集中しています。中でも東京都には37カ所と最多で、神奈川県が10カ所、千葉県が8カ所と続きます。関西圏では大阪府に6カ所あり、他地域は散在しています。これらのデータは環境省の公表情報を基にしており、大型データセンターの排出構造や地域偏在が明らかになりました。今後の脱炭素対策における重点領域といえます。

□ □